

学校名	福島小学校		
ホームページURL	なし	児童・生徒数	336名
(1) テーマ アルミカンを集めて体の不自由な人に車いすを贈ろう テーマの分類(一エ)	(2) 活動の単位 学級 該当学年 6年		
(3) 活動のねらい 困難にぶつかった時に、自分達で話し合っ解決していく力をつける			
(4) 活動の実際(活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等) 2年生の時、「アルミカンを集めて届けると、車いすに換えてくれる会社(環公害防止連絡協議会)」の存在をBさんの母親から聞いた子ども達は、自分達もやってみようという願いをもち活動を始めた。しかし、なかなか集まらず活動は停滞してしまう。5年生になった子ども達はこの活動を続けるかどうかあらためて話し合った。これまでの自分達の姿を見返し、もう一度気持ちを入れ直してがんばろうと確認しあう。その後、子ども達は様々な方法で収集を開始し、目標の800kgを達成し、車いすを手にする。・届いた車いすは地元の特別養護老人ホームに贈り、老人ホームと交流会を行った。 (以下本年度6学年の活動内容) 4月、子ども達は5年生の経験から自信と満足感をもち、今年ももう一台車いすをめざそうと考えていた。そんな時、環公害防止連絡協議会から手紙が届く。代表のAさんが過労の為入院、一命はとりとめたものの、仕事を続けられる状態ではないため、環公害の活動の一切を終了するとのことであった。子ども達は今後の活動について話し合った。お世話になったAさんに励ましの手紙をみんなで書いた。地元の鉄工所にアルミを運びお金に換えてもらったかどうかという案が出た為、担任が、現在のアルミニウムの換金率を知らせた。また、C君が父親から車いすのカatalogをもらってきて値段を調べたところ、約1300kgのアルミが必要なことがわかる。子ども達は車いすを断念することを決める。ただ、アルミカン集めは今後も続け、卒業前にそれをお金に換えて体の不自由な人為に何かを買って贈ることにした。6月、Aさんから手紙が届く。その中に大阪のF社が、Aさんの考え方に賛同し、環公害の活動を引き継いでくれたことが書かれていた。 子ども達は話し合い、目標を再び800kg・車いすに変更することに決める。(7月) 学校の友達や地域、親戚、知り合いに協力を得ようと、今までの経過と自分達の考えをプリントに印刷して配布する。11月、目標達成。町のクリーンセンターにプレスをお願いする。お家の方にも協力をお願いし、宅急便で届ける。車いすの送り先を話し合い、昨年候補にあがっていた隣の特別養護老人ホームに贈ることに決定する。 時数 6年生になってから(30時間)			
(5) 指導体制(校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等) 全校児童、職員・・・日常的なアルミカン集めの協力 アルミカンを貯めておく場所の確保 地域の方・・・アルミカン集めの協力 自動販売機に看板を出させてもらう等 クリーンセンター・・・宅急便の規格に合わせる為にプレスしてくれた 社会福祉協議会・・・車いすの贈り先について情報提供 特別養護老人ホーム・・・子ども達との交流 アルミ集め役場・・・アルミカンプレス機(スチールとの分別機能付き)の無料レンタル 輸送用トラックの無料レンタル 環公害防止連絡協議会のみなさん			
(6) 指導上の留意点(時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等) ・時間割には位置づけない。必要な時に時間をとる。他の教科の時間に踏み込むことがないように気をつける。			
(7) 評価(基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際) ・活動が意欲的であるか。自分の力で解決しようとしているか。自らもとめているか			
(8) 成果と課題 ・話し合いの中で何回も意見の対立があった。友達の考え方に触れ、自分の見方考え方を深めていった子が多かった。 ・学校関係者以外の方と出会い、手紙や電話をを通して広い視野を身につけていった。 ・何度も困難にぶつかり、友達と話し合っ行動し解決してきたことで、自信をもつことができたようだ。 ・以下の理由から、はたして総合的な学習としてこれでよいのか疑問です。 結果(800kg)をもとめてしまうこと。 学習の行き着く先(車いすを贈る)が最初からかなり決まっていること。 クラスの子ども全員がよく頑張ったが、楽しくて、夢中になれていたか疑問であること。 子どもひとりひとりの興味とか関心を大切にできていたのか疑問であること。			